バズ学習研究会会報

[redacted]

はじめまして

今年度あらたに事務局をお引受けしました。何から手を付けてよいやら分かりませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

さる２月１１日に名古屋にて役員会が開かれて決まったものです。今年度の総会（８月に予定）で承認されるまでは臨時的な事務局ですが、一生懸命勤めさせていただきます。

できるだけ多くの機会に、会報を発行して、全国の皆さんと連絡をとりあっていきたいと思っています。会報の中味は、各地の実践報告や大学の研究者の研究成果など、いろいろなアイデアをもりこんでいきたいと考えています。　原稿などはワープロで送っていただき、切りはりの会報になるかもしれませんが、ご愛読とさらにはご投稿のほどお願い申し上げます。

組織の再編成を

会員の皆様御存じのように、塩田先生が御逝去になって１年以上になります。その間、大勢の先生方のご尽力で第２４回バズ学習全国大会は大成功をおさめました。岐阜県土岐市泉中学校と泉西小学校の皆さんありがとうございました。また、大学関係の研究者の方々が会を盛り上げて下さいました。ありがとうございました。

かくしてバズ学習研究は着々と歩み続けているのですが、全国組織のほうは残念ながら停滞しております。その第１は、会費の納入が思うようにはかどらず、それでも冊子のほうは送付しなければならずで（印刷費４５万円）財政的に苦しくなったことです。第２は、全国組織が生れた頃の皆さんがご退職になり、後に続くべき私達がしっかりしていなっかったということです。

そもそもバズ学習の全国組織は塩田先生の人脈で成り立っていたのではないかという人もあって先生がおみえにならない今、その維持・運営がたいへんむずかくなったのかもしれません。

しかし、バズ学習の研究・実践そのものは、最初に述べましたように各地で確実に歩み続けていますし、その方法は随所で活用されています。

また、名古屋大学の梶田教授をはじめとして北海道から九州まで、多くの研究者たちが教育現場との連係を含めて本格的に参入してくださっています。バズ学習は今や多角的に見直され、より豊かなものに変貌する可能性が出てきているのが現在の状況であるといえます。

このような状態ですので、各地で地道な研究・実践を続けておられる皆さんと連絡を密にし、情報交換のできる場をふたたび実現したいと思います。

そのためには、組織を再編成する必要があります。別紙の『会員募集要項』にぜひ賛同してくさって、参加・不参加を問わずかならずご返事を下さいますようお願いいたします。また、近況・要望など、忌たんのないご意見を寄せてくださるとたいへんありがたいです。

どうか御協力のほどお願いいたします。

第２４回バズ学習
全国大会の成果と反省

昨年の１１月に岐阜県の土岐市で、第２４回バズ学習全国大会が開催されました。

土岐市立泉中学校から『成果と課題』がよせられましたのでその抜粋を紹介します。

＜ 成 果 ＞

1．生徒も教師も「学びあい」を意識的にとらえるようになった。学習のなかで仲間のよさを見つけ認め、自分の学習に生かそうとしたり、話し合いに進んで参加したり、あるいは仲間のなかで学習課題をともに考え、解決しようとする姿がいくつか見られるようになった。

2．「学びあい」の姿を生み出す単元構想図を作成してきたことにより、単元を通しての課題が明らかになり、それにかかわる課題や指導内容そして学びあいの姿を意図的により多く生み出すことができた。

3．各教科のなかで学びあいの姿を生み出すバズ学習のとらえを明らかにし、授業のなかで位置づけてきたことにより、生徒たちの人間関係が高まると同時に、学習参加度を高めることができた。

＜ 課 題 ＞

1．「学びあい」には生徒同士の触れ合い、意志の疎通、気持の交流がなくてはならない。失敗したり、まちがえたり、照れたり、笑ったり、ときには怒ったり、悔しがったり、そうゆう生徒同士の感情の交流を円滑にし、人間関係をあたたかいものにしていく土壌づくりをもっと多面的に考えていかなくてはならない。

2．単元構想図の見直しと授業改善を図らねばならない。

3．各教科ごとにバズの種類を分け、バズを学習課程のどこに位置づけるとより効果があがるかを考えていかねばならない。

また、バズをとおして個を大切にし、育てていく面をいっそう研究していかなければならない。

第２５回バズ学習
全国大会のお知らせ

平成２年度の全国大会は名古屋大学で開催されることになりました。期日は８月２４日（金）と２５日（土）を予定しております。

詳しい要項は後日お送りします。いままでとはかなり趣向を変えて実施されることになりそうです。夏休みのこの期間はぜひあけておいてくださいますようお願いいたします。

教育現場の実践者と大学の研究者が、膝をつきあわせて話し合える機会はめったにありません。ご期待ください。

早とちり？

だいぶ先のことになりそうですが、梶田先生を中心とした研究グループにより『バズ学習Ｑ＆Ａ』が刊行されます。この本の著述にあたり、多くの教育現場の考えを参考にしたいとの意向だそうです。ご期待と御協力をお願いします。

編 集 後 記

とりあえず、とりいそぎ会報を作成しました。次号からは少しはましなものになるよう努力しますので、おおかたのご指導・ご叱声・ご鞭撻・ご協力のほどお願いいたします。

バズ学習研究会会報

[redacted]

ごぶさたしています

全国バズ学習研究会会長　西村　精爾

今年度あらたに会長をお引受けしました。何かとお世話になりますが，どうぞよろしくお願いいたします。

さる8月24・25日に名古屋大学にて第25回全国バズ学習研究大会が開催されました。皆様の御協力のおかげで盛会のうちに終ることができました。ありがとうございました。とりわけ，目黒教育研究所の久保田先生や名古屋大学の安彦先生のご参加により，研究内容が多彩に展開されました。厚く御礼申し上げます。

一人ひとりの子供の成長・発達を大事にしていこうとは，普通の教師なら誰でも考えていることです。それを鮮明なイメージで具体的に方法論化しているバズ学習にめぐりあった私達は，ほんとうに幸運だと思います。これからも皆さんと一緒に研究と実践を深めていきたいと思います。どうか御協力のほどお願い申し上げます。

（春日井市立南城中学校長）

（右欄のつづき）

と同時に，子どもだけでなく，先生方も教員室やいろいろな会議の場面で，「バズ学習」を自ら実践されることをお薦めします。お互いに学習指導で困った問題などをバズのテーマにして，それをどう解決したらよいか，個人思考，グループ思考してみることはどうでしょうか。こんな活動が学校で，素直に行えるようになったら，教師自身の成長を非常に促すことは間違いないと考えます。ぜひ，そんな教師社会を実現してください。

バズ学習は子どものかかわり体験学習を豊かにします

名古屋大学教授　梶田　正巳

今の時代をどういう時代と考えるかは，いろいろな見方がありますが，わたしは，子どもの「社会性」を育てなければならない時代だと思っています。一人子や二人子がほとんどで，家庭ではたいていが大事に大事に育てられています。親は子ども同士のつきあいよりも，勉強のできてくれるのがいいと思っています。ケンカの体験さえもとぼしい。ケンカしないでは，お互いがどうつきあったらよいか，学ぶことは不可能ですし，ましてケンカを乗り越えて，どう共同したらよいか知恵が生まれません。

バズ学習は，こんな時代にうってつけの教授方法です。個人で考えたり，それを持ちよって集団で討論したりしますから，どんな他の指導方法よりも，子ども同士の「かかわり体験」が豊かになるはずです。

もちろん，初めから子ども同士がうまくつきあえるわけがありませんが，そこは長い目で見てください。子どもたちは，思考錯誤しながら，「共同」するのはどうしたらよいか，また，どうしたら共同が破れるか，を自分の個人的体験を基礎にして，次第に身につけていくはずです。頭や言葉だけで，「共同」の重要性をいくら学んでも仕方がありません。こんな学習法は，畳のうえの水泳練習と同じで，全く意味がありません。

現実の体験に根ざした学習こそ，本物というべきです。だから，学校のいろいろな場面で，子どもたちが切磋琢磨する「バズ学習」を実践してみてください。（左欄へつづく）

基本に立ち返ること

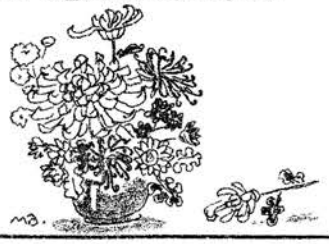
前バズ学習研究会会長　　荻原　克己

そもそもバズ学習の発想は，集団のもつ教育作用の重要性に対する着目からであった。ひとりひとりの個性を大切にしながら，相互に影響し合い高め合う組織化された学級集団は，教師一人の力では到底及ばないほどの大きな教育力を発揮する。これをあらゆる学習活動の中で，意図的に活用すべきだろうという考え，理論が構築されいろいろな方法が編み出されてきた。

それは，学習の効率を高めることと同時に，相互作用を通して，よりこどもたちの人間形成を図るというものである。人間本来の在り方や，新しい時代に即応できる人としての資質を高めるために，相互作用は極めて有効な場や機会を提供する。「バズ学習」から「バズ教育へ」，という声がこれまでの経緯の中でもしばしばあったのである。バズ学習は，認知と態度の同時達成をねらい、教科指導と生活指導の統合を目指している。いわば，バズ学習の理論は教育の統合論なのである。

いま教育改革のさなか。新しい教育の指向は，どの答申やどの施策をみても分かるように，教育内容についてはこの統合論が柱になっている。道徳教育も生徒指導も進路指導も保健安全指導も余暇指導も，全教育活動を通して行うことが求められている。生涯学習の叫ばれる中，教師がこどもたちに与えてやらなければならないものは何なのか。

集団のなかでこそ個性が発揮され，個が磨かれていくことも忘れてはならない。



よりよい人間関係を築くために

――バズ学習を効果的に生かした道徳の指導の試み――

青梅市立第１中学校　　埴水尾　祐文

ボランテイアについての学習を通して人権の尊重を学ばせるために，バズ学習を導入してみた。

対象の１年生は入学以来半年を経過し，さまざまな人間関係を形成してきた。一方，現代のこの年代の傾向でもある「他に対する配慮の無さ」や「思いやりに欠ける」側面があって人間関係がうまくいかない生徒の存在も否定できない問題としてとらえなければならない。そこで私は，担任としてこのような問題を，人間尊重の精神を生徒の心に養うという方法で解決していきたいと考え，この主題を設定した。

なお，私は人権尊重の精神を「人が人としてお互いを認め，助け合いながら生きていこうとする心」と理解して，このことを実践に結び付かせる指導の手だてとして，どうすれば「よりよい人間関係」を築いていくことができるかについて生徒に考えさせるための方法の一つとして，ボランテイアの考え方を導入した。

この日の授業までにボランテイアについての理解をするために３回の授業を実施した。その後，今回の一連の授業だけでなく，日常の生活のなかで目的を果たし，「バズ学習」を効果的に取り入れるため，バズ学習の解説と練習を３回ほど実施した。

この授業では，前回のボランテイアの解説授業の生徒の感想を読み，まだ本当の意味で理解していない人がたくさんいることから，体の不自由な人や高齢者に限らず，学校の仲間や友達とつきあうときも「自分が上だ」とか「やってあげる」というような高い立場からでなく，「同じ仲間」としてつきあうことを解説し，その同じ仲間とつき合うとはいったいどのようなことなのかをバズで

話し合わせてみた。そして，生徒の意見を吸い上げ，まとめてみるとはじめに私の考えた「人が人としてお互いを認め，助け合い支えあいながら生きていこうとする心をもつこと」に近い答えが出てきた。ここでさらにある中学生の作文を引用し，理解を深めさせ，最後に今回の授業の確認を生徒にさせるため，もう一度バズで話し合わせた。

人権尊重の精神を体得させるためには，生徒自身の身近なところからよりよい人間関係が築かれねばならない。この目標を達成するに際して，バズ学習は大きな助けとなった。詳細な指導案や，生徒の感想などについては，機会があったら発表したい。

事務局より

※　原稿をお寄せ下さいましてありがとうございました。かなり論議を呼びそうな箇所がありますので，全文を掲載しなければならないのに，紙面の都合で載せられなかったことを深くお詫びします。

※　8月の，まことに暑い名古屋で全国バズ学習研究大会が開かれてからもう4カ月経ちます。皆さんも元気でご活躍のことと思います。「このごろバズの研究会が面白くなくなった。どうも『はじめにバズありき』で，いつも同じような話ばかりでつまらない」という声に対して充分応え得た大会であったと思います。

※　近年，子どもに最も必要であり，私たちが一番教えていないもののひとつに「生き方」の問題があります。道徳など社会的な規範としての生き方は教えていますが，本来の意味での「人生とは何か」「なぜ生きるのか」については，なにも教えていません。このような中身のものも今後は考えていきたいと思います。おそらくバズが威力を発揮するような気がします。ぜひ，ご投稿をお願いします。

学習指導と個性化（抄）

中京大学　杉江修治
（文責：事務局）

1．はじめに

(1) 個を生かす，個が生きる

個性は人間性の一部であり，いうまでもなく，個性のみを取り出して教育の営みをすることはできない。

個性を育てる，個を生かすためには，差異を強調するよりは，むしろ，一人ひとりの人間性の共通部分に根をおろした指導がなされなくてはならないだろう。

個人差への配慮が不要というのではない。個人差の基礎にある，共通部分に対する配慮が相対的に大きくあるべきであり，子どもたちに共通する学習の原理を踏まえるということを重視したいといいたいのである。

(2) 教科指導の原理への着目

授業の計画にあたって，教師はその内容、方法の意志決定者であるから，教材への深い理解が必要であることはいうまでもないし，それを深めるための議論が盛んになることは望ましい。

しかし，授業の成功，不成功は，教材提示の成功，不成功ではない。子どもがどれだけ学習したかで測られなくてはならない。

教材と学習の手順を学習の原理に基づいて組み立てる。そして，授業の展開のなかで一人ひとりに応じた工夫が必要と予想される部分では，こんどは大胆に原理の応用を試みる。応用にさいしての判断の根拠は，教師自身の経験であり，他の教師の経験であり，ときには、学力水準別に検討された、部分的な指導原理である。

2．個を生かす教科指導の原理

(1) 指導は子どもの主体的な学習を促し，援助する営みである

授業の主役は学習者である。授業は主役が多数

で，わき役が一人という少し変わったドラマである。

(2) 課題のないところに学習は存在しない

「課題＝Ｔａｓｋ」は「仕事」である。誰も仕事の内容が分からないのでは働きようがない。教師が与える場合も，子どもに見つけ出させる場合も、学習にとりかかるときには，課題の内容ははっきりと示されなくてはいけない。

(3) 学習の過程では同時的な複数の学習が生起する

人間関係のもち方・対人的な感受性・対人関係技術・興味関心・学習のしかた・学習態度ｅｔｃ

(4) 子どもは仲間から多くのことを学ぶ

子ども同士は相互作用を通して，学習には有益な情報交換を行う。考えを出し合い，話し合いの中で練り上げ，一人では到達できない目標にいたる可能性がそこにはある。

ペア学習，小集団学習など，多様な学習活動の許容は，個のさまざまな生かし方の経験の場を与えることになろう。

(5) 評価の機能は学習成果のフィードバックにある

指導改善の情報として教師が活用する情報を集めるために，また，学習者自身が自らの学習を方向づけるために，さまざまな評価手続きが導入されなくてはならない。それは明らかに学習を効果的にする働きをもつ。

(6) 教師―子ども間，子ども間での信頼関係が重要な背景となる

そのためには，子どもは成長の意欲を強くもった存在であり，基本的には主体的な学習者であるという認識に立った対応が必要となる。子どもを受け身的な存在としてしか見ないのでは，信頼関係を確立することは困難である。また，個性を差異の部分のみに着目してとらえているならば，信頼関係を子どもとの間に成立させることは困難となろう。

３．授業に生かすべき実証的見地

(1) 学習課題の明確化の効果

学習課題とは，ここでは，学習すべき内容と，その結果をどう表すかまでの指示をさす。

学習目標は，教師が承知すべきことがらというよりは，子どもたちが，自身のすべき活動として認識できることが必要になる。「学習課題」は「学習目標」をさらに学習者にわかりやすく把握させる手続きである。

(2) 個別学習と集団学習の組み合せ

個人思考をしたあとの話し合いは，グループに提出する情報をメンバーが各自にもった上で（わからないものはどこがわからないかを見当づけた上で）参加するため，活発で生産的なものとなる。集団を通して個を生かす有力な手段といえよう。

(3) 教えることの効果

子ども同士の教え合い，学び合いの過程は，子ども主導の過程であり，個に応じた学習活動を可能にする場面である。相互作用から互いに得るものも多い。

近年，合衆国などで研究が進んでいるPeer-Tutoring の研究でもチュータとして教える側に立つ子どものほうが教えられる側の者よりも多くの利益をその経験から得ることが報告されている。

(4) 協同の効果

個に応じた指導の中に競争の原理を入れるべきではあるまい。競争と協同の概念には，大きな混乱がある。切磋琢磨ということは，磨き合い，共に輝くようにすることであるから，その過程は時に競っているように見えても，その目標構造からいえば協同事態なのである。競争は磨き合った結果，一方は光り，一方は摩滅してしまってもよいという事態のことである。競争のもつ否定的な方向の動機づけを避け，協同の原理の中でこそ個を生かす工夫が可能となろう。

（以下略）

第2号　1991-5-31

バズ学習研究会会報

[redacted]

本年もよろしくお願いします

全国バズ学習研究会会長　西村　精爾

今年度引き続き会長を引受けています。何かとお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

昨年の8月２４・２５日に名古屋大学にて第25回全国バズ学習研究大会が開催されました。皆様の御協力のおかげで盛会のうちに終ることができました。ありがとうございました。

本年第26回全国バズ学習研究大会は春日井の先生たちのお世話で、名古屋市で開催されることになりました。真夏ですから、冷房のきくところでと配慮していただきました。昨年のように研究内容が多彩に展開されることを期待しております。

過去２０数年間に、新しい指導要領が出るたびにバズ学習の理論は「それを先取りしていた」と言われましたが、このたびの指導要領にもぴったりの教育理論です。それはなぜでしょうか。

一人ひとりの子供の成長・発達を大事にしていくことを前提とするかぎり、それを具体的なイメージで方法論化しているバズ学習は、新しい理念が出てくるたびにそれを包含し、包含する過程で鍛えられ、磨かれ、深化していく理論であるからだと私は考えています。

第26回の研究大会は「今、教室で何が求められているか」をテーマに、新学習指導要領を絡めて研究を深めたいと思います。どうか御協力のほどお願い申し上げます

事務局がかわりました

４月の定期異動により、事務局が西部中学校から南城中学校にかわりました。昨年に変わらずよろしくお願いいたします。

第26回全国バズ学習研究大会のご案内

1　日　時　8月10日（土）9時30分受付
2　会　場　愛知県婦人文化会館
　　（名古屋城の南側）
3　主　催　全国バズ学習研究会
4　後　援　愛知県教育委員会
　　名古屋市教育委員会
5　照会先　全国バズ学習研究会事務局
　　（連絡あり次第、要項送ります）
6　基礎講座・応用講座の講師紹介

(1)「これからバズ学習を始める人のために」を担当してくださる小島幸彦先生は、岐阜県土岐市泉中学校が２５年ほど前に、バズ学習研究体制の黄金時代を築き上げたときの、推進力になった方のお一人です。実際の学級経営や授業実践を通して、様々な困難を乗り越えてきた経験豊かな先生です。現在は岐阜県の教育委員会で後進の指導にあたっておられます。

バズ学習（特に学級経営）のノウハウもさることながら、実践と研究をどう結びつけていくかについても多くのことが勉強できる機会になると思います。

(2)「参加者とともにバズ学習を試みる」を担当してくださる丸山正克先生は、豊川市の中部小学校が今や古典的な名著と評価される「小学校のバズ学習」を出版されたときの主力メンバーのお一人です。特に授業の中で、じつに具体的で様々な技法を編み出された先生です。

「バズ学習の良さはわかっているが、どうも具体的なイメージがつかめない」と言われる先生には重要な転機となりそうです。のみならず、ベテランの先生にもあらためて発見させられることが多く、この機会は逃せないと思います。

(3) 「バズ学習への必然性」と、やや抽象的な標題で講義をしてくださる荻原克己先生は、春日井市内の教務・教頭・校長それぞれの時代に学校ぐるみの研究体制作りを成し遂げ、全国バズ学習研究会を今日あるように育てられた先生のお一人です。現在は南山大学で教鞭をとっておられます。

今なぜバズ学習なのか・教育の本質とどうかかわりあっているのか・どのように体制作りをしたらよいのか等々のお話が予想されます。

それぞれの地域でバズ学習研究のリーダーになっておられる先生にぜひ聞いていただきたいのですが、初心の方々にも十分わかりやすくお話していただけると思います。

(4) 「自由バズの試み」の講義をお願いすることになった市川千秋先生は、名古屋大学でバズ学習生みの親である塩田先生に師事され、三重大学の教官になられてからも研究を深められ、「自由バズ」という新しい分野を開かれました。

バズ学習の方法にやや行き詰まりを感じておられる先生には、発想の転換と新しい視点からの見直し、さらにはあらためてバズ学習を柔軟に考え直す絶好の機会であると思います。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

会報の編者としましてはどの講座も見逃したくありません。これらの講座が午前と午後に分かれるものの、(1) と (3) , (2) と (4) が同じ時間に行なわれるのが勿体ない気がします。その上さらに実践研究発表の発表者の、それぞれの地域を代表してのフレッシュな報告が期待できますし、助言者の先生がそれぞれ１講座お願いしたいような方ばかりで、ほんとうに勿体ない感じです。これも大会の運営上やむを得ないことのようです。

せめて、講義・発表の要項が参加者全員に渡るようにしたいと思っています。そのような意味でも印刷物をできるだけ期日までに送っていただけると有難いのです。ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

地区バズ研だより

―――兵庫県尼崎市の場合―――

尼崎市では、昨年から「個を生かす指導法研究会」が発足しました。バズ学習を中核とする指導法の研究会です。

全国バズ学習研究会でもよく知られている前田義夫先生（明石市）を名誉会長に、以前バズ学習研究に取り組んでおられた先生から若い先生までの、層の厚い研究団体です。

第26回全国バズ学習研究大会の分科会の助言者である池田洋先生を会長として、谷口寛二先生や中京大学の杉江修治先生などから勉強しながら、もっぱら授業研究に重点を置こうと考えておられるようです。

研究会は、毎月の第３土曜日の午後、尼崎市の教育総合センターで開催されます。

来年度の全国大会は尼崎でお願いすることになりそうです。事務局としてもできるかぎりの応援をしたいと思っております。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

今後、できるだけ多くの地区における研究活動の様子を紹介したいと思いますので、事務局のほうへ御連絡ください。

『自己実現』とは

―――事務局からの提言―――

新指導要領に「自己実現」という言葉が出てまいりました。塩田先生は１０数年前から「教育とは児童生徒の自己実現を援助する過程である」と主張されています。

それでは「自己」とは、「自己実現」とは、どのような意味をもっているのでしょうか。正直なところ会報の編者も、なんとなく理解し、なんとなく使っているような感じがあります。この際はっきりさせたい、というよりもこの言葉の意味をふくらませたいと思っています。次号までにぜひ原稿をお願いしたいと思っています。

バズ学習研究会会報

[redacted]

はじめまして

全国バズ学習研究会会長　今尾　啓一

昨年の８月１０日に、名古屋市の婦人文化会館において第２６回全国バズ学習研究大会が開催されました。皆様の御協力のおかげでたいへん充実した時間を持つことができましたこと、厚く御礼申し上げます。

そのおりに今年度の会長という大任をおおせつかり、たいへん恐縮しております。微力の自分に勤まるかどうか自信はございませんが、お引き受けしたからには一生懸命がんばっていきたいと思っております。皆様の絶大なる御協力・御指導をお願いいたします。

さて、昨年の大会は予算の少ない手作りの大会とかで、役員を引き受けていただいた皆さんにたいへんな迷惑をおかけしたと聞いております。まことに申し訳ないことで、深くお詫びするとともに、御協力を心から感謝申し上げます。おかげさまで、少ない予算でも内容の充実した実質的な話し合いができることがわかり、その上バズ学習を原点から見直すよい機会になりました。教師自身が勉強し自己変革をしていく過程こそ教育なのだと思います。これからも皆さんと一緒に実践的研究を深めていきたいと、かさねて御協力のほどお願い申し上げる次第です。

※　そのときにきついことを言われても、おたがいの基本的な信頼感があれば腹は立たない。信頼感は、教師にやる気をおこしたりなくしたりする日常のやりとりにおける人間関係の中で育つ。課題としてのインフォーマルな面は、見過ごされがちであるが大事な問題をはらんでいる。バズ学習を通してたくましい社会性を育てるためには、教師自身もバズ学習を行なうことによってたくましい社会性を身につけるのである。最後になるが、「教師の力量」をどうとらえたらよいか。教えることは下手でも子供をやる気にさせる。見えないところが見える。短い時間にいかにインパクトを与えられるかなどが考えられる。

（第26回全国バズ大会講演より抄録：文責・事務局）

バズ学習と教師の成長について

全国バズ学習研究会研究者代表
名古屋大学教授　　梶田　正巳

協同学習の方法（コーポラティブラーニング）は現在アメリカでもかなり注目されている。

スタンフォード大学のキャサリン女史が日本の学校教育に関心を寄せ、リサーチアシスタントとして春日井市内の三つの小学校に依頼し、協同学習について調査をした。そこで撮影をしたビデオテープをもとにして日米の協同学習を比較したところ、次のような差異がみられた。

ある種のテーマを出したあとの話し合いのようすであるが、アメリカは個人主義の国であることを考慮に入れるにしても、グループの組み方はてんでばらばらである。人数も２人・４人などと特定されず、スタイルもはっきりしない。これにたいして日本はハンドサインなど、ある形を作りあげている。どちらが良いという議論は別にして、注目したいのは「協同」の概念である。協同は、力をあわせて何かを作りあげることであるが、決してスマートなものではない。現実はもっとドロドロしたものがあるのが普通である。ひとりひとりが「こうすればできる」「こうすれば壊れる」と認識してセルフコントロールをしているのであるから、そうカリカリしないで遠い視野をもって臨めばよい。ドロドロしたダイナミックなプロセスの中で、子供たちは免疫ができるし「たくましい協同」もできるようになる。そしてたくましい社会性が育つのである。

一方、「社会性を育てる」ことを目標とする教師自身はまたたくましい社会性を身につけねばならない。そのための一方途として、塩田先生は「教師もいっしょにバズ学習をしたらどうか」と言われた。学習指導とは問題解決のことであり、問題解決の前提として問題の発見がある。しかし教師の提供した問題と生徒が発見した問題とのくいちがいは見逃されがちである。だから例えば授業を見てもらうことを勧めたい。授業を見てもらうことは、教師の力量によって、問題のとらえ方の違いが明らかになる。

※　（左欄下段へ続く）

新学習指導要領とバズ学習

中京大学教授　杉江　修治

＊新指導要領のキーワードは①自ら学ぶ意欲②社会の変化に主体的に対応できる能力③基礎基本の徹底④個性を生かす⑤教育活動全体を通しての道徳教育である。

＊ここには教育観の転換が見られる。古くて新しい考え方で、バズ学習の考え方と大いに結び付いている。自己教育力の強調や総合的な学力観などは、バズ学習と深く結びついている。

＊バズ学習の従来からの特長は、

①人間関係は教育の基盤②認知的目標と態度的目標の同時達成③科学的な研究の成果を積極的に採り入れる④教育とは子供の学習活動を援助する過程である⑤子供が主役で教師が脇役⑥課題のないところに学習は成立しない⑦同時学習は必ず起きるが意図的に指導すればその可能性はもっと高まる⑧評価・・・などである。

＊指導要領は総合的な学習活動を求めているが、総合的な学習活動をさせるには一貫性がなくてはならない。バズ学習の原理は「共同」「学びあう」「教師・生徒の信頼関係」などで一貫性がある。

＊「自己教育力を形成する」には、内発的な意欲を開発しなければならない。そのためには「課題」が重要になってくる。課題とは何をやったらよいか明確になることである。また「自己教育力を形成する」には、ある活動に参加させる（例：発言の機会を多くする）・自信を持たせる（失敗をとがめない・受け容れられているという実感・成功体験の積み重ねなど）・自己評価能力（友人は鏡である・相互評価と自己評価の連続性）など、バズ学習の基本とするところばかりである。

＊「基礎基本」は、大部分の子供が達成できるはずであるが、相互援助の場所や態度面における基礎基本が形成される場所が重要となる。バズはそのような場所である。

＊「個性を生かす」ためには、個性が許容される環境・個別な発想が受け入れられる場所がなくてはならない。バズは、まさにそのような場所である。

（春日井市バズ研究会講演より抄録：文責・事務局）

第26回全国バズ学習研究大会の反省

皆さん御存じのように、昨年の8月10日に第26回全国バズ学習研究大会が名古屋市で開催されました。

「今、教室で何が求められているか」を主要テーマとしながら、様々な視点から多角的に話し合いがもたれました。

基礎講座は新しくバズ学習を始められる先生のために開かれたものですが、かなりベテランの先生も多く受講されました。講師の先生は、バズ学習草分の頃に中心的な役割を担って意欲的に授業実践をされた、当時20代の先生です。学校ぐるみの研究体制のなかで、若い先生の果たす役割はたいへん大きいのです。

応用講座では、やはり体制創りの意義と重要さが強調されました。教育委員会などからなにかの研究を委嘱されたときこそ、そのテーマ実現のための方法論として、あるいはテーマとあい響きあう教育理念として、バズ学習実践の体制を創る絶好の機会になるのです。しかし、この場合でも若い先生が上からの押し付けで「やらされている」と考えるのでなく、自ら主体的に創造の意欲を燃やせることが重要なポイントになるでしょう。

期せずして、実践研究発表の分科会では、若い先生方の素晴らしい発表が続出しました。実践の裏付けされた内容の充実した発表は、新鮮で説得力がありました。

このように見てくると、全国バズ組織の企画・運営や研究大会の持ち方なども、若い先生方の参入を考える時期に来ているのかもしれません。御存じのように、バズ学習の全国組織も地区の組織も新旧交代のタイミングに問題があったように思われます。バズ学習の基本的な理念は揺るぎのないものでありますが、運営の仕方については検討しなければならない時期に来ているということです。

第27回全国バズ大会について

第27回全国バズ学習研究大会は、平成4年2月10日に尼崎市で開催される予定です。日程や内容については、はっきりしてからお知らせします。皆さんのご参加を期待し、お会いできる日を楽しみにしています。

バズ学習研究会会報

[redacted]

第27回全国バズ学習研究大会が尼崎市で開かれます

第3号でお知らせしましたように、第27回全国バズ学習研究大会が兵庫県の尼崎市で開催されます。

期日は平成５年２月１０日（水）。

年度末の忙しいときあるいは受験の時期と重なって、参加しにくい方もあるかと思いますが、そのような時期に敢えて開催してくださる「尼崎市個を生かす指導法研究会」の皆さんに敬意を表する次第です。

場所は尼崎市立上坂部小学校と尼崎市立大庄東中学校で、久し振りに公開授業が見られます。生の授業を素材にしての研究・討議の時間がタップリと計画されました。しかもたいへん面白い授業をされる先生方だそうです（失礼！子供の生き生きとした活動が見られるという意味です）。

午後には、昨年のように基礎講座・実践講座・応用講座が開かれます。

実践講座では、全国各地の若い先生方が日頃の実践の成果を（あるいは疑問の数々を）報告し、それに基づいて研究が深められます。

応用講座では、全国バズ始まって以来の外国人教師による外国における協同学習の様子が紹介されます。（今のところ予定です。）

講演は中京大学の杉江教授にお願いする予定です。明快で歯切れのよい、ユーモアのあるお話が聞かれることと思います。ちなみに、杉江先生は小・中学校時代、マンガ少年だったそうです。

また詳しい要項ができ次第発送しますので、２月１０日は是非とも空けておいてください。時間は９時４０分から１６時２０分までですから、名古屋・広島の先生も日帰りが可能かと思います。（もちろん余裕のある方はゆっくりしていってください。夜の尼崎市もなかなか魅力的だそうです。）

参加者とともにバズ学習を試みる

——第２６回大会基礎講座より——

豊川市立天王小学校　丸山　正克

これからバズ学習を試みたいと考えている方、あるいはバズ学習とは、どんな特徴をもった学習であるかを知りたい、と思っている方がお集まりになっていると思います。

そこで、バズ学習を理解していただくために、実際に、バズを試みながら、この講座を進めたいと考えています。子どもたち達と同じ様な指示を致します。バズ学習を体験しながら、バズ学習を理解してください。

１．バズ学習で期待していることは何だろう［課題１］

日常の授業で、新しい単元に入るとき、あるいは、前の時間までの学習の続きをしようとする時、皆さんはどうしているのでしょうか。

単元についての既有知識を発表させたり、前時の学習内容について尋ねたりします。新しい内容についての子どもたちの知識や理解程度、あるいは前時の学習内容の定着度などについて、情報を得ようとします。一種の評価活動を試みるわけです。

さて、私もバズ学習について、皆さんがどの程度の知識をお持ちなのか、情報を手に入れたいので、さっそくバズを試みていただきます。

一度、全員お立ちください。午前中の講義を聞いたり、これまで自分で実践したり、人に話を聞いたりしてバズ学習では何を期待しているのか、自分なりの考えを持っている方はお座りください。考えが正しいかどうかではありません。考えがあるかどうかということです。

立っている方、座っている方は、バズ学習が期待するものは何であるか、自分なりの考えを持っています。参考のために聞いて模倣で結構ですから、自分の考えにして座ってください。

小集団を作ってバズをさせる方法には２通りあります。

今日のように、予め小集団が作れないがバズを使いたいというときには、いま行なったような方法で小集団を作ってバズをさせます。これを「自由バズ」といっています。

一方、予め、小集団を作ってバズをさせる方法があります。一般的な方法ですが、「自由バズ」に対して「固定バズ」と呼んでいます。

固定バズの小集団の編成について、３つの原則があります。

> 男女混合であること。
> 上中下位群の子どもで編成すること。
> グループ間は等質にすること。

ごく普通の社会的な集団構造にするということと、助け合うとか認めあうということは、こういう状況で成立するという理由からです。

しかし、社会性の発達、同一視の意識の発達、他者の評価能力、価値観の変化等を考えると、低学年から小集団を作って学習活動をさせることは少々危険です。

そこで、１年生は隣同士のバズ（ペア・バズ）で、確認や練習を中心に、話し合いの基本訓練をします。２年生～４年生ぐらいまでは、男女４人の小集団を基本にします。５・６年生で６人ぐらいまで増やしてもよさそうです。しかし、うまく聞こえず大声になることがあります。在籍人数にも左右されますので４～５人の編成ができればよいようです。

この小集団で、全てのことをやります。編成替えは、練習と交流の機会を与えるために、学期に１～２回行ないます。その原則は上記のとおりですが、相互排斥関係にあるものは一緒にしないように配慮します。

作業は教師の大事な仕事です。慣れるにしたがって、子どもの代表が編成して学級会などで承認を求めるという方法もできます。

編成をするときは、例えば、「誰とでも仲良く出来るようにするために」とか「みんなの話がきちんと聞けるように」とか、その目的をハッキリさせると効果的です。

バズをさせるときには、「何について情報交換をするのか」明確に指示します。さもないと、単なるおしゃべりに終ってしまいます。

さて、話し合った内容を発表していただきますが、バズ学習では発表の原則がありますので、少し説明しておきます。

よく聞く言葉に、「話し合いをしグループでまとめなさい」があります。バズ学習でも「まとめなさい」ということは言いますが、多数決による少数意見の切り捨てや優秀児の意見一つにまとめることはしません。話し合いの過程で、それぞれが自分の考えをまとめることが、バズのねらいの一つなのです。現実には、考えの持てない子もいます。そんな子には、自分が納得できる友達の考えを、自分のものとして言わせるようにしています。

話し合いには全員が参加しています。したがってみんなの発表を聞いているわけですから誰でも発表できるはずです。もし言い忘れたり言えなくなってしまったら、誰かが援助しています。

バズ学習というのは学習の形態です。密蜂がぶんぶん言っている状態を指します。お互いに情報を交換しながら進める学習という意味です。その過程で、子どもたちが変容していくことを期待しているわけです。現に目の前にいる子どもをどう変容させたいか「具体的にイメージ」することが大切です。

私のバズで期待する具体的なイメージは、こんなふうでした。

① お互いに助け合ってクラス全体が学習に参加する。
② お互いが情報を交換することによって、自分の考えを深化・拡大する。
③ 自分の考えを説明したり伝えたりすることによって、理解が促進する。
④ お互いに認め合うことによって、クラス成員の協調と信頼関係を高める。
⑤ 授業に参加することによって教科の目標（認知目標）の達成と、自己実現を目指すために何をすればよいか（態度目標）ということの理解の同時達成を図る。

つまり、望ましい人間関係の育成を基盤に、教科学習活動を核にして、新しい態度を形成しようというのです。アカデミックな学習内容は教科の学習で、ノンアカデミックな態度は教科外学習（生活指導）でという分離型学習を、

統合して同時に達成しようというのです。同時学習といいます。

そして、このように教科学習の目的と、生活指導の目的を認めつつ学習させる発想を「統合」と言っています。

この理論は、個と集団の統合を図ります。一人ひとりが期待像に近づくことは、個の集合体である学級集団の成長を意味します。ですから個の埋没は致命的です。

2．期待する子どもを育てる具体的な方策［課題2］

バズ学習で期待していることは何であるか、お分かりになって頂けたでしょうか。考えてみますと、別にバズ学習独自の願いではありません。皆さんが願っていることと同じです。

ただ、バズ学習では、期待しているのであるから「子どもを育てる場を授業のなかに計画的・積極的に設定する」と言うところに特長があります。

具体的には、話し合いを中心とする「相互作用の場」を授業のなかに積極的に取り入れるということです。相互作用というのは、「お互いに関わり合うこと」と考えていただければよいと思います。その方法は、話し合いにとどまりません。

話し合い以外にどんな方法があると思いますか。

いろんな方法を駆使しますと、いままで見られなかった友達の良さが発見でき、助け合い認め合うことができるようになります。それによって協力の必要性が体験できるのです。協力の大切さが理解できます。

計画的積極的にというのは、一律一斉に相互作用をさせるということです。できるだけ、友達の良さが分かったり助け合い認め合うことの大切さが体験できるよう計画することが不可欠です。もちろん、臨機応変という措置を認めないというわけではありません。けれども、子供を育てるわけですから、授業計画のなかに組み込んでおくことが原則です。

話をもとに戻します。

相互作用は「話し合い」のみではない。と言いました。どんなことをさせたら、子供たちは協力の大切さや友達の良さを発見できるでしょうか。個人で2、3分考えてください。話し合いの方法についてのアイディアでも構いません。　・・・・・・・・・

「ああではないか。こうしたらよい」と、もやっとした考えが浮かんできました。なんとなく人に尋ねてみたり、共鳴してもらったりしたくなってきました。

それでは、いま考えていることの発表をしてもらいます。その人は、発表を聞きながら真似でもいいですから、自分の考えを決めてください。　・・・・・

相互に関わり合うには、関わり合う内容、つまり、自分の考えを持っていることが大前提です。とは言うものの下位群の子は、そんなに簡単に考えが持てません。そこで、今のようにヒントを与える意味で、他の子たちに発表をさせます。時には、「今の発表のなかに先生の期待していることが2つあった」というようなことを言って、思考活動を援助することもあります。

さて、皆が参加できて協力の大切さが実感できる「相互作用の方法」として、どんなことを考えたか、グループで話し合ってください。そして、どんな方法が良いか、2つ3つ選んで発表してください。

ひとくちに話し合いと言ってますが、こんな方法もあります。

① 分かった人から発表する。発表をきいて自分の考えを補足修正する。

② 公式などを、順番に言い合って自分のものにする。練習を目的とする。

③ 計算の仕方など、確かめをする。相互評価をさせる。

④ ノートをみて、前時の学習内容を説明する。自己評価活動をさせる。　［以下略］

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

丸山先生のお話（寄稿）は、ここまでで約半分です。以下の主な項目を拾ってみますと、

3．授業過程のどこで相互作用をさせるか

4．みんなリーダー、みんなフォロアー

5．子供のペースに合せる

6．バズはオールマイティか

と続きます。続きをぜひ読みたいという方は、事務局へ連絡してください。原稿のコピーをお送りします。

バズ学習研究会会報

[redacted]

第２７回全国バズ学習研究大会を成功させましょう

全国バズ学習研究会
会長　今　尾　啓　一

毎日、児童・生徒が生き生きと学習できるよう研鑽を積んでおられる先生方に心から敬意を表します。常日頃、全国バズ学習研究会のために、ご指導・ご協力を賜っておりますこと、心から感謝申し上げます。

さて、皆様お存じのように来たる２月１０日に第２７回の研究大会が尼崎市で開催されます。子どもたちの進路や私達の人事などで忙しい最中ではありますが、あえて開催をしてくださる「尼崎市個を生かす指導法研究会」の皆さんに心から敬意を表します。

全国大会も２７回目ということは、全国的な規模で研究が始まって２７年も経過しているということになります。（たしか、第４回と第５回が同じ年に開かれておりますから、２６年ということになりますか）それにしてもたいへん息の長い研究組織であると言えます。

私も、第１回の研究大会で四国の徳島県に出させていただきましたが、あのときのバズ連として参加した阿波踊りは忘れられません。ずいぶんと熱気があったように思います。以来、各地でも人が変わり、組織が変わりながら、今日まで維持運営（あるいは復活）してこられたのは、諸先生方のご労苦もさることながら、やはりバズ学習理論の奥の深さと包容力のしからしむるところかと、あらためて驚いています。

第２７回大会は、尼崎市の先生方のご尽力で開催されますが、このことは息の長いバズ学習研究にまた新しい１ページを記すことでもあります。ぜひ成功させたいと思います。会員の皆さんのご協力を心からお願い申し上げます。

また、各地方で多くの方が研究・実践に励んでおられることと思いますが、事務局の力量不足もあって全国バズの舞台に載せることができないことを申し訳なく思っています。この点での御協力をぜひお願いいたします。

参加者とともにバズ学習を試みる

――第２６回大会基礎講座より――

豊川市立天王小学校　丸山　正克

前号では、「１．バズ学習で期待していること。２．期待する子供を育てる具体的な方策」について掲載しましたが、その続きをぜひ知りたいという声が多くありました。丸山先生の原稿を全部掲載できなくて申し訳ありませんでした。本号では、「３」から掲載することになりますが、ご了承ください。

３．授業過程のどこで相互作用をさせるのか

前章で、授業のなかでどんな場合にバズを取り入れるのか、およそ見当をつけることができたのではないかと思います。

なかなか一言で説明することは困難なことですが、それを決めるための着眼点をいくつか挙げてみましょう。

① 授業には課題があり、到達目標を定めます。いわゆる中心課題は、目標到達の重要ポイントです。全員の子供が到達してほしい部分です。授業の山とでも言いましょうか。ここがバズ設定のポイントです。

② 九九のように記憶することにウェイトのかかった内容を練習させます。

③ 学習内容が理解されているかどうか確認したいとき、相互評価をさせます。

④ スタートをそろえないと学習に支障を来すとき。レディネスの調整を目的とします。

⑤ 大切な段階で分からないことはないか確認させる。グループ内で解決できることは解決し、質問を整理する。

など、決まってきます。ここでなければならないといった、学び方学習のような固定的な公式があるわけではあり

ません。計画は計画で大切ですが、子供の理解状況によって臨機応変、取り入れていくフレキシビリティの高い方法です。「だからバズは分からない。しっかりしたパターンがないから、ハウ・ツーがないから分からない。それを示すべきだ。」という批判もあります。

相互作用のあとは、必要に応じてノートを加除修正・補足させるようにします。ノートは、自分の学習の成果を自覚できる場なのです。皆さんにもその原則にに従ってノートを加除修正・補足していただきます。その際、疑問や問題点がありましたら、まとめておいてください。

さて、ノートをまとめていて、疑問があったり、理解が十分でなかったり、もう一度確認したいことがあるかどうか、グループで確認していただきます。分からないことをそのままにしておくことがないように、訓練をします。「何か質問はありませんか」「分かった人は手を上げなさい」これも確認の方法の一つです。しかし、かならずしも十分とは言えません。

一般的に授業のなかで、確認をしっかりすることが大切である、と言われています。これを「即時評価」と言っています。評価の必要性は認められていますが、具体的な方法がどうもはっきりしません。バズにおける相互作用は、評価の重要な役割を果たすことができます。

この結果、子どもたちのほうから「＊＊さんが分かりませんから、もう一度説明してください」という要求が出るようになると、バズ学習の目的は達成されたといえます。助け合い励まし合う学習の成立であり、自己実現への努力が表出したと言えます。

4．みんなリーダー、みんなフォロアー

バズ学習では、望ましい人間関係が育成されることを期待しています。望ましい人間関係とは、どんな状態をイメージしたらよいでしょうか。

① お互いがお互いを信頼している。
② 気軽に尋ねたり教えたりできる。
③ 暗黙のランク付けがみられない。
④ 誰とでも協調・協力できる。

イメージが具現しますと、オシオメトリック・テストの結果は、下位集団がいくつもできた分離型の集団構造になっていません。凝集度を高め分裂性を減少させます。また社会的地位得点にきわめて大きな差が出ないという結果が期待できます。

こうしたことの実現を計るために、役割を次のように分担します。

① 全員が司会者とフォロアーという役割を果たします。班長という言葉を使いますが、司会役を意味します。
② 発言は、司会者の指名によって行ないます。
③ みんなの話を聞いているのですから、全員が発表の役割を果たします。とは言うものの、現実は能力差を否定できません。そんなとき、役割を果たせるよう援助するのがフォロアーの役割です。

新しいことというのは、最初からうまく行くものではありません。そこでバズ学習に取り組むときは、その意図を子どもに説明してやることが大切です。また、子どものペースに合せるために、子どもと教師の人間関係を確立しておきます。

次に、評価表を作成し、子どもに提示します。私がよく使う評価表を紹介します。

・司会者は、問題をみんなに伝えたか。
・司会者の指示にしたがって発言したか。
・分からない人は、みんなの言うことをよく聞いて、真似でもよいから発表したか。
・無駄話やよそごとはしていなかったか。
・発言の途中で、横から口出しをしなかったか。
・時間が余ったら、ノートに書き加えたり、直したりしたか。

これにしたがって、相互作用の練習もします。以後、ときどき自分たちの行動を自己評価させます。そうして、誰もが班長を務め、良きフォロアーになれるようにできるかぎり、授業のなかで体験をさせます。

4．子どものペースに合せる

この時間に自分はどれだけ「得」をしたか、ということが楽しい授業を左右します。どうして得になるかということも重要なのです。

「本が読めるようになった。それは、分からない漢字をグループのみんなが教えてくれたからです」「みんなでテストのリハーサルをやったあと、テストに挑戦したら、前よりよくできた」ということが聞かれると、子どもたちは協力の意義と協調の必要性、あるいは相互作用の良さを体感したと言えます。

また、ノートをみて、本時の学習の経過を説明させることによって、学習内容の確認をさせます。それは自己評価活動でもあるわけです。説明がしどろもどろであるということは、半理解のじょうたいであることを意味します。こうしたことを、本時の終わりにノートに書かせます。私は通常、次のような指示をします。

① この時間に分かったこと、はっきりしたこと、なるほどと思ったこと、今まで想像していたことと違っていたことなどは何か。

② 疑問、質問、教えてほしいこと、やってみたいこと、意見、感想など。

子どもたちは１時間の間にかなり揺れ動きます。項目を挙げてチェックする方法や評定尺度法のような方法では、子どもは困るようです。自由記述にしています。

5．バズはオールマイティーか

残念なことにオールマイティーではありません。教育方法にベストはありません。あるのはベターなのです。「教育は創造である」というのは、常にベターを追究しているからでしょう。バズ学習は、よりベターな学習理論であると考えています。しかしベターをも阻む要因があります。

これまでの経験からいくつか挙げてみましょう。

① 子どもの好む学習形態には、個人差があります。グループで話し合いながら勉強するのは嫌い、分からない子に教えるのは面倒だ、と言う子どもがいます。そのような子どもが入っているとうまくいきません。

② 「真似をしてもよい」といっても、やはり下位群児はなかなか参加できません。はじめから頼ってしまうということがあります。

③ 子どもの参加度が高まりますと、授業が遅れぎみになります。

④ いわゆる好きな子同志のグループは、意外に成果が望めません。無駄話が多くなります。

⑤ 能力別グループも成果が期待できません。助け合うということができなくなることがあります。

⑥ 分からないことを、「衆知を集めて考えろ」と相互作用をさせても、効果はありません。無から有を望むのは理不尽です。

⑦ 競争を持ち込むことは、かえって人間関係を悪くします。出来る子も出来ない子も居ます。競争に負けることで、出来ない子の排斥に直結します。

たとえそうならないまでも、面倒を見る上位群児に負担が掛かりすぎます。

これまで一度も触れませんでしたが、「教師の役割」というのは何でしょうか。

教師は、学級集団の権威あるボスであり、頼りになる仲間であり、全てについての決定者なのです。私は、学期に一度「先生の通知表」を書かせます。教師と子どもが共同して作り上げるバズ学習では、教師の意志が子どもに伝わっているかどうかは大問題です。

相互作用をしているときには、グループの状況を観察し、うまくいっていないグループがあったら、何が原因でうまくいかないのか、相談にのってやり適切な助言をしてやります。時には、司会役をすることも必要になります。

そのための必要かつ十分条件は、なんといっても「子どもに信頼されている」ことです。そうなるためには、常にどんなことを意識していなければならないでしょうか。

それを次に挙げてみます。

・差別意識ということを意識する。
・望ましい人間関係を意識する。
・認めあうということを意識する。
・学級の社会的構造を意識する。
・学級づくりが学級経営の最終目標であることを意識する。
・助け合い、認めあう学級集団を価値あるものとして意識する。
・個を育てることは、集団を育てることであるということを意識する。
・常に同時学習をしていることを意識する。
・学級づくりは、子どもと教師の共同作業であるということを意識する。

「バズ学習は、単なる教育技術ではない。バズ学習が成立できる学級集団を育てる営みである。」というのが、私が持ち続けてきた認識です。

皆さんがバズ学習を実践し、「自分でなければ出来ないバズ学習」を子どもたちと共に作り出してくださることを期待して、話を終ります。

バズ学習の原則にしたがって、個人でまとめをし、グループで話し合って質問事項をまとめてください。後ほど、お答えします。ご協力を感謝いたします。ありがとうございました。

◇　◇　◇　◇　◇　◇　◇　◇

第２６回全国バズ学習研究大会の基礎講座において話された内容を、丸山先生がこの会報のためにわざわざ書き直してくださったものです。

ワープロのキーを打っていて、理論の構築もさることながら先生の誠実で優しい心に何度も触れることができ、感動いたしました。本当に心が洗われるような思いをしました。どうもありがとうございました。

会員の皆さんには、編集者の不手際でまことに申し訳ありませんでしたが、前号と合せてお読みいただけるとたいへん参考になると思います。

播州バズ再建される！

バズ学習研究の先進地域である姫路市の周辺の先生方によって、バズの研究会が復活しました。

以前、永井先生や牛尾先生にはずいぶんとお世話になりました。世代交代などもあって、一つの組織が維持されていくことは本当に難しいことです。どんなに優れた学習理論があっても、誰からの強制もない研究会を維持運営していくことは大変なことだと思います。今後のご活躍を楽しみにしております。今のところ正式の名称などについては事務局もつかんでおりませんが、詳しいことは次号でお知らせしたいと思います。

編　集　後　記

尼崎市の研究大会と姫路市の研究会と、期せずして兵庫県が話題になりましたので、しめくくりも兵庫県で・・・

テストで　いつもよい点ばかりとっている人が　／必ずしも　賢い人ではない　／そういう人のなかにも　ときどき　たいへんバカな人がいる　／テストで　どうしても　よい点のとれない人が　必ずしもバカな人ではない　／そういう人のなかにも　／たくさん　尊い　偉い　賢い人がいる　／／せっかくいただいた　ただ一度の　かけがえのない自分の人生　／二度といただけない　大切な　自分の人生　／それを自分で汚し　ダメにし　台なしの人生にしてしまう／こういう人をこそ　ほんとうのバカな人というのだ　／／バカな人にかぎって　／自分がバカな生き方をしていることを知らない　／知らないどころか　／「自分が自分の人生をどう生きようが勝手じゃないか」などと／得意になって　／大威張りして　／とり返しの付かないほんとうの大バカになっていく　／／自分の人生をすばらしい人生に仕上げる責任者であるとともに　／すばらしい未来をつくっていく　大切な任務をも背負っている　君／自分の人生を　光いっぱいの人生にするとともに　／光いっぱいの未来を創りあげる者を　／生み育てるという壮大な使命を背負ってうまれてきた　あなた　／／どうか　どうか　／バカにだけは　ならないでおくれ

（東井義雄先生「バカにはなるまい」より）

バズ学習研究会会報

[redacted]

はじめまして

全国バズ学習研究会会長　加藤　孝史

先年度、尼崎市において第２７回全国バズ学習研究大会が開催されました。様々な制約と条件があって、非常に困難な状況であったにもかかわらず、素晴らしい成果をあげられた尼崎市の先生方に心から敬意を表します。おかげでたいへん充実した時間を持つことができました。なかでも若い先生方の熱気と女性教師の研究の深さが印象的で、他地区の私達にとって学ぶことの多い大会でした。

この大会で、東京からおいでいただいた望月先生が貴重な資料を届けてくださいました。１０数年前に東京で大会が開かれたときの塩田先生の講演記録です。そのなかの特に印象的なものを抜粋して挨拶のかわりといたします。

新指導要領では個性の重視・生涯学習・変化への対応・自己教育力などが強く主張されていますが、塩田先生はこのことを予見して、まずわれわれ教師や大人たちが子供を見る目を変えること、そして「思いこみ」や「決めつけ」思考に基づく予断や偏見を捨てて差別的な態度や言動を改めることであると次のような警告を発しておられます。

① 教育や指導に関する「思いこみ」や「決めつけ」は、その進歩や発展の源泉ともいうべき疑問や問題の出るのを妨げ、その解決への努力を押え込むおそれがある。

② 「思いこみ」や「決めつけ」はまた、教育や指導の基盤ともいうべき望ましい人間関係に悪影響を及ぼすおそれがある。ことに子どもたちの人間観や相互の人間関係への影響はきわめて重要である。

③ 「思いこみ」や「決めつけ」は煎じつめれば、力（教育力）のない教師の逃げである。

④ 教育や指導は最も創造的な活動に属するものであるから、つねに柔軟な思考や態度が強く求められている。

そして個を生かそうとするなら、いっそう「個の差異性よりも個の類同性に着目する」ことと「排除の論理よりも共存の論理を重視する」ことが大切であると述べられています。これはまさに教育の大前提となるべき哲学ですが、私達バズ学習を推し進める者にとっても基本的前提であると、自省・自戒しております。

個性は望ましい人間関係の中で相互に助けあい、励ましあい、高めあいながら生かされ、鍛えられ、伸長していくものであります。それは児童・生徒自らの主体的な活動であって、教師が引っ張っていくものではありません。教師にできることは、相互活動のできる場の設定と適切な援助のための努力です。努力の内容として教師に求められるものは、一人ひとりの子どもをみつめる確かな目と様々な事態に対応していける柔軟な思考や態度であるということです。

最後になりましたが、２７回大会の翌日に今年度の会長をやれとおおせつかりたいへん困っております。微力の自分に勤まるかどうか自信はありません。率直に申し上げて全国バズ学習研究会の組織は様々な問題を抱えています。バズ学習そのものは、皆さん御存じのように豊かな理論と実践に裏打ちされ私達のやる気をかきたてますが、組織の維持・運営となると別のエネルギーが要求されます。

それでも尚、お引き受けしたからには一生懸命がんばっていかねばなりません。それには皆様の絶大なる御助力・御協力・御指導がぜひ必要です。どうかよろしくお願いいたします。

新刊図書の紹介

『子どもと親と教師のための

やさしいサイコシンセシス』

エヴァ・フューギット／平松；手塚訳　　春秋社

・私たちは「本来の自分」にふれることで、限りなく成長し自分らしい生き方ができるとともに、他者（人や自然）とも健全なよい関わりができます。この本には、子どものなかのWise Part Within（内なる賢者）を呼び起こし、ほんとうの自尊感情が育つ過程を援助するための方法がぎっしり詰まっています。

バズ学習研究会の学習合宿を計画しました

平成５年度は研究大会をお休みします。

しかし、勉強の機会はぜひ欲しいというご要望に応えて下のようにたいへん魅力的な企画が実現しました。

バズ学習の原点を踏まえながらも、もう少し視野を広げたいと考えておられる方、研究者の先生方の生の声をもっとじっくり聞きたいと考えておられる方にとって、貴重なチャンスになることと思います。

性別・年令・経験・経歴・学歴等一切不問、勉強したいと思われる方はぜひご参加ください。

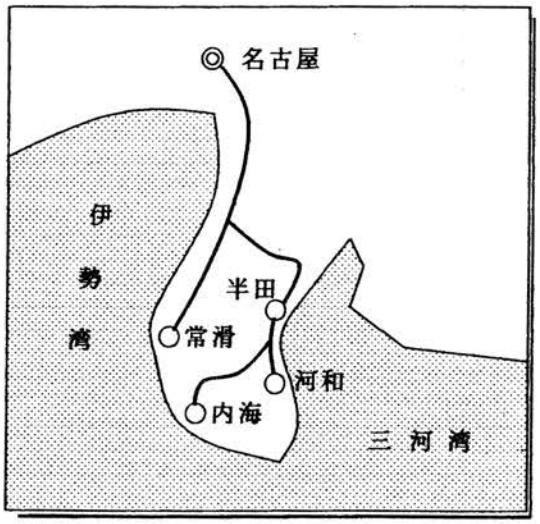
◇　◇　◇　◇　◇　◇　◇　◇

○ 期　日　１２月１１日（土）、１２日（日）

○ 場　所　[redacted]

○ 会　費　１２０００円（宿泊費を含む）＋α
（学習会のみの参加は２０００円）

○ 人　数　３０人（人数オーバーの場合は宿泊のみ近くの民宿を斡旋します）



○ プログラム

《１１日》

14:00 ～14:15　挨拶・紹介など

14:15 ～16:15　アメリカの協同学習；ジョンソンらの「学習の輪」の紹介

名城大学　伊藤　康児先生
日福大学　伊藤　篤先生
南山大学　石田　裕久先生
中京大学　杉江　修治先生

現在、４人の先生が翻訳中です。

16:30 ～18:00　新しい実践を求めて

半田青山中　成田　幸夫先生

成田先生は元緒川小研究主任、興味深い実践をしてこられた先生です。新しい視点が見つかりそうです。

18:00 ～　懇親会（活魚料理）

《１２日》

9:00 ～10:30　教師作成テストでの新しい着眼点

福井大学　大野木　裕明先生

この内容の本が出る予定です。新しい学力観に基づいたテストのあり様の勉強が期待できます。

10:45 ～12:30　教師の指導論；実証資料からの提言

名古屋大学　梶田　正巳先生他

バズ学習研究のリーダーがたいへん忙しい時間を割いてお話をして下さいます。

12:30 ～　昼食・解散（南知多・常滑・半田の観光ができます）

○ 申込先・問合せ先

[redacted]

※ 準備の都合がありますので、１０月３１日までに申し込んでください。

※ 「派遣依頼文書」の必要な方は申込みの際におっしゃってください。折り返し発送いたします。

バズ学習研究会会報	[redacted]

◇全国バズ学習研究会開催のお知らせ◇

平成１０年度は研究大会をお休みいたします。しかし、日頃の会員の方々の研究・実践報告会、情報交換会をしたいというご要望もあり、本年度は会員等の勉強会を中心に研究会を開催したいと考えております。

また、バズ学習の原点に立ち返り、21世紀の教育の在り方を考える機会とし、さらなる研究と実践に役立つ新しい学習理論等もお互いに勉強し合う「学習合宿」を具体的に計画しているところです。以下、事務局で検討している内容について、会員の皆様にお知らせします。（要項・申込書につきましては、後日お届けします）

☆ 第30回全国バズ学習研究会「学習合宿」計画中

○ 期　日　１１月２２日（日）、２３日（月）

○ 場　所　[redacted]

○ 会　費　１２，０００円（宿泊費を含む）＋α
（学習会のみ参加は２，０００円）

○ 人　数　３０名（人数オーバーの場合は近くの民宿を斡旋します）

○ 内　容

＜第１日目＞１１月２２日（日）

１４：００～１４：３０	開会行事（挨拶・自己紹介）
１４：３０～１６：１５	講座Ⅰ
１６：３０～１８：１５	講座Ⅱ
１８：３０～	懇親会（夕食・活魚料理）

＜第２日目＞１１月２３日（月）

９：３０～１０：１５	講座Ⅲ
１０：４５～１２：００	講演
１２：００～	昼食・解散（南知多観光）

○ 申込先　[redacted]

全国バズ学習研究会会報 [redacted]

◇第30回全国バズ学習研究会（学習合宿）のお礼◇

向寒のみぎり、会員各位には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、去る、１１月２２日・２３日に愛知県の内海で開催しました全国バズ学習研究会にご支援、ご協力を賜りましたこと、厚くお礼申し上げます。

小春日和のすばらしい天候に恵まれ、全国から３０名をこえる実践者・研究者・小中高大学の先生方にご参加いただき、21世紀の教育に向けた研究や活発な討議がされ、また、交流の機会ともなり、関係者一同心から喜んでいます。そして、研究会では、格別報告者、司会者、記録者の方々にご協力いただき、深く感謝しております。

今後とも、人間関係を基盤とした学習と指導を目指すバズ学習の実践と研究にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

時節がらご自愛ください。　（全国バズ学習研究会事務局）

実践報告キーワード　（第30回全国バズ学習研究会）

講座Ⅰ　＜教師の指導技術＞

☆「オーストラリアにおける総合的学習」　南山大学教授　石田　裕久先生

◆「教科」指導主義の限界◆教師に求められる資質の変容◆教科の壁をどうのりこえるか－必要な意識改革・壁ののりこえ方◆総合学習とバズ

☆「再び、バズ学習とは何か」　中京大学教授　杉江　修治先生

◆３つの基本仮定－人間関係が教育の基盤・動機づけの重視・一貫性、統合性の重視◆学習指導過程の３つの留意点－参加を企図した授業計画・協同による学習指導過程・成就を確認する評価活動◆１つの構え－同時学習

講座Ⅱ　＜人間関係づくりの技術＞

☆「歴史学習の学びを確かなものにできる子どもの育成」

～学ぶ意欲が高まる表現活動を取り入れた総合的な調べ学習を通して～　春日井市立牛山小学校教諭　小川　治先生

◆表現活動◆調べ学習◆子どものつくる学習

☆「バズ手法を取り入れた学級経営」

ー仲間との関わりを学ぶ学習を重視してー　尼崎市立水堂小学校教諭　西村久美子先生

◆学級経営方針の立案◆学校教育目標◆学級児童の実態◆学級目標◆児童集団が形成される第一歩はコミュニケーションが成立すること◆他領域への広がりや指導の一貫性

☆「自分や仲間を見る目を育てる行事の指導」　中津川市立坂本中学校教諭　松井紀史朗先生

◆願う姿◆生徒の実態◆行事の価値を明確にする◆学級や学年の活動を個別指導の集合体ととらえるー行事の活動が教育的なものとなる

講座Ⅲ　＜人間関係づくりの技術＞

☆「いきいきと自分の思いを表現する授業」

ー生涯学習につなげる中学３年生の美術ー　春日井市立柏原中学校教諭　長縄功太郎先生

◆生涯学習につなげる◆自分らしさ◆自分の思い◆お互いの個性の良さを認識し、協調する

☆「バズ学習と同和教育」

ー統合へのまえがきー　元広島県高校教員　越智　昭孝先生

◆同和教育運動◆解放運動◆自己改革・自己解放◆国民的課題◆自己教材化◆自己の差別意識◆教育七割、管理三割◆同和教育とバズ学習の統合

☆「ボランティア活動を理解するために」

ーバズ学習を導入した道徳の授業ー　青梅市立青梅第一中学校教諭　水尾祐史先生

◆心情の育成◆知的理解◆思考力・判断力の育成◆実践的態度の育成

○講演　「最近の教育改革と授業の進め方」　名古屋大学教授　梶田　正巳先生

◆大学改革◆中等教育学校ー中高一貫教育◆総合的な学習◆関係づけ学習◆認識離散モデル（サラダボールのイメージ）◆認識統合モデル（ルツボのイメージ）◆学習能力の優秀性は思考能力の優れていることではなく、別の能力とすることもできよう

第30回全国バズ学習研究会（愛知県・内海）

◇事務局ＭＥＭＯ◇　第30回全国バズ学習研究会の「実践報告資料」のご希望の方は事務局までご連絡ください。また、会員各位の実践などお知らせください。

全国バズ学習研究会会報

[redacted]

◇平成１０年度全国バズ学習研究会役員会の報告◇

立夏の候、会員各位には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、去る、２月２７日に全国バズ学習研究会の役員会が愛知県のルブラ王山で開催され、下記の内容についてご協議いただきましたので、お知らせいたします。

記

1　平成１０年度事業報告
2　平成１０年度会計報告
3　平成１１年度事業計画（下記参照）
4　全国バズ学習研究会会則
5　平成１１年度役員について
6　第３０回全国バズ学習研究会報告
7　その他

☆　平成１１年度全国バズ学習研究会活動計画

年　月　日	活　動　内　容
１１．　６．	・平成１１年度　全国バズ学習研究会会員募集 ・役員委嘱 ・会報発行（ＮＯ．１）
１２．　１．	・第３１回全国バズ学習研究大会（東京大会予定） ・全国バズ学習研究会総会
１１．１２．	・会報発行（ＮＯ．２）
１２．　２．	・全国バズ学習研究会役員会（愛知県） ・懇親会 ・会報発行（ＮＯ．３）

事務局より

☆　会員の方々の研究情報・雑感等、「会報」の原稿を随時募集しておりますので、是非、事務局までお寄せくださいますようお願いします。

全国バズ学習研究会会報

13. 6. 20

全国バズ学習研究会事務局

感動と希望にあふれた

第三十二回 全国バズ学習研究大会

―― 岐阜県土岐市立泉小学校・泉中学校にて ――

平成十二年十月三十一日、土岐市立泉小学校（三宅敏弘校長、児童七百五十三人）泉中学校（後藤東一校長、生徒七百三十九人）で開かれ、全国から二百三十人の研究・実践者が参加し、感動と希望にあふれた素晴らしい大会でした。

大会主題「個と集団を鍛えるバズ学習の究明」のもと、午前中は授業公開、午後は教科別の授業研究会と分科会が開かれ、バズ指導法の工夫や「生きる力」をつけるにはなどについて意見を交換しました。

泉中は、過去二度全国大会を引き受けて、研究推進に大きな役割を担っていただいています。そして今回、小さくなったバズ学習の灯を赤々と照らすような感動と希望を与えていただいた大会でした。

参加者の感想

本日は、生徒が生き生きと学習に取り組んでいる姿、学級全体でも互いに安心して話し合う雰囲気が出来ていることに感心

生き生きと話し合う泉中生徒

新しい教育に向けて

全国バズ学習研究会会長　堀場正美

昨年度、岐阜県で第三十二回全国バズ学習研究大会が開催されました。岐阜県土岐市立泉中・泉小学校の全面的なご協力で、素晴らしい研究大会となり、特に、両校のバズ学習実践や研究協議で多くの成果をあげることができました。各関係機関並びに会員の皆様のご支援ご協力の賜と心からお礼申し上げます。

さて、平成十四年度から新しい教育の求める「生きる力」の育成のためには、基礎学力・基礎基本の定着を図り、子どもに「学力」をつけることは言うまでもありません。

バズ学習（協同学習）は、人間関

しました。　（岐阜県教員）

一方的に教えるのではなく、生徒の自主性を尊重した自発的な授業で、バズ学習の成果に驚きました。　（愛知県学生）

大きく灯そうバズの灯を！

第三十三回全国バズ学習研究大会

泉中学校・泉小学校で照らしていただいたバズ学習の灯を大きくするために、第三十三回全国バズ学習研究会を次のように学習会形式で予定しています。

【期日】　十一月十日（土）十時～十六時三十分
【会場】　名古屋工業高等学校（予定）
【大会テーマ】　「新しい教育の目指す方向とバズ学習」
【内容】
・基調提案　「新しい教育と協同（バズ）学習」
・研究協議　「学ぶ力を育てるバズ学習」
　　「自ら律し心を育てるバズ学習」
　　「共に学び共に育つバズ学習」
・講演　「総合的な学習の導入と教師の役割」
　　南山大学教授　石田裕久　先生

平成１２年度会計報告

収入総額
１，０１７，００３円

〈内訳〉
繰越金　８９５，６１３円
会　費　１２１，３９０円

支出総額
５８５，４２０円

〈内訳〉
大会補助費　２７０，０００円
通信費　５６，１００円
会議費　３０，２００円
事務費　１４，２７０円
印刷費　１６４，８５０円
慶弔費　５０，０００円

差引残高
４３１，５８３円

平成１２年度バズ学習研究会役員会報告

去る、３月１０日に役員会が愛知県の「ＫＫＲ名古屋三の丸」で開催され、下記の内容についてご協議いただきました。

・平成１２年度事業報告、会計報告
・平成１３年度事業計画
・平成１３年度役員について　（別紙参照）

係を教育の基盤とする学習指導理論の上に立って、子ども一人一人を生かし、真の学力を身につけることができる学習方法であり、新しい教育のねらいにまさに合致していることは長年の研究、実践から実証されています。

そこで、本年度のバズ学習研究会では、新しい教育に対応できる研究と実践をより深め、学習指導のさらなる変化と挑戦と創造に努め、バズ学習研究会の発展のために事務局として会の運営を図ってまいりますので、会員の皆様の絶大なるご指導、ご協力、ご協力をお願いします。

平成十三年度会員募集・会費納入について

【会員募集】
１　会員名簿作成の都合上、参加のお気持ちのあるなしにかかわらず、必ずご返事をください。
２　それぞれの地区で研究実践の仲間を増やすようにしてくださいますようお願いします。

【年会費納入】
１　個人　２０００円
　　学校加入　１０００００円
２　順次受け付けていますが、名簿作成の都合で九月一日までにお願いいたします。
３　できるだけ各地区単位で一括納入をしてくださると助かります。
４　[redacted]

※振り込み用紙を同封します。裏面の通信欄に自宅の住所・電話番号、勤務先の住所・電話番号を書いてください。

全国バズ学習研究会会報

平成１４年５月２０日

発行
全国バズ学習研究会事務局
愛知県春日井市立南城中学校内
会長　長縄秀孝

熱気に満ちた 第三十三回 全国バズ学習研究大会

―― 名古屋工業高等学校（免震校舎）にて ――

平成十三年十一月十日（土）、名古屋工業高等学校を会場にお借りして、全国の研究・実践者百三十六人が参加し、熱気に満ちた協議を行いました。

大会主題「新しい教育の目指す方向とバズ学習」のもと、午前中は、杉江先生の基調提案に続いて研究協議１「共に学び共に育つバズ学習」で、総合的な学習の時間でのバズ学習の取り組みを協議しました。午後は、研究協議２「学ぶ力を育てるバズ学習」、教科指導におけるバズ学習で、個に応じた学習や自ら学ぶ力を育てる学習の成果と問題点を話し合いました。

参加者が十二班に分かれ自らバズ学習を体験しつつ時間が過ぎるのを忘れて意見交換をしました。発表内容はいずれも新指導要領の実施にとまどいながらもユニークなものでした。

詳細につきましては、左記の「バズ学習」ホームページをご覧ください。

「バズ学習」ホームページ
URL:www.tcp-ip.or.jp/~mrym/home.html

第三十四回全国バズ学習研究大会

東京都バズ学習事務局のご尽力により、左記のように開催することが決まりました。内容につきましては、後日発送する「開催案内」をご覧ください。

〔会場〕
東京都杉並区立阿佐ヶ谷中学校

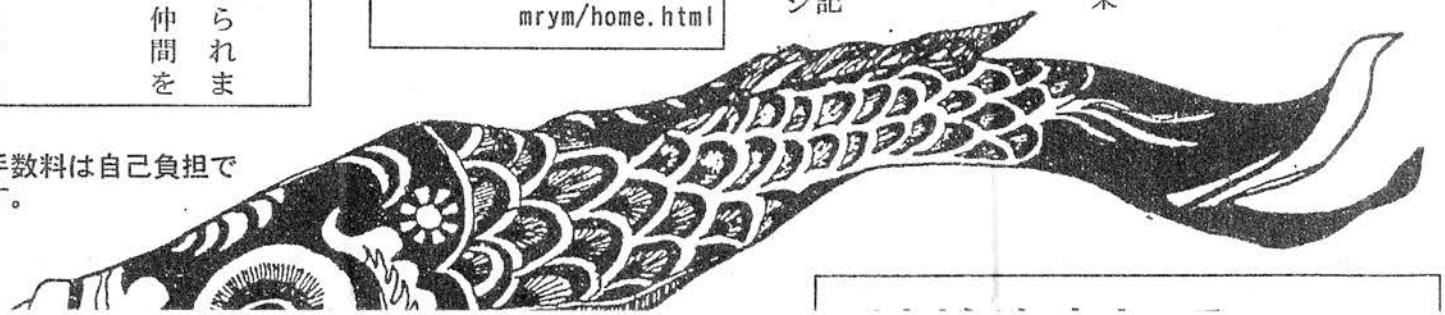
〔期日〕
平成十四年十一月一日（金）

平成十四年度 会員募集と会費納入について

〔会員募集〕
１　一人でも多くのみなさんが会員になられますようお願いします。
２　また、それぞれの地区で研究実践の仲間を増やすよう声かけをお願いします。

〔年会費納入〕
１　個人　二千円
２　団体加入　一万円
３　月　一日まで　順次受付
振り込みは、同封してください。名簿作成上、九月振り込みの用紙でお願い申し上げます。自宅の住所・電話番号を書いて、通信欄に勤務先の住所・電話番号を書いてください。

※　振り込み手数料は自己負担でお願いします。



はじめまして

全国バズ学習研究会会長　長縄秀孝

い実ら実　果導し研平　礼支並　げた国　た議参造いし大第等
と践れ績こた・た究成さ申援び会る大大一だを加し〝た会三学昨
思をてをのしごが会十てしのに場こ会会昨き進者てバ°を十校年
い少い踏四て支〝の四〝上お全校ととに年まめ全いズ新開三を十
ましるま十い援皆会年本げか国校がな続のしる員く学し催回会一
すでバえ年きを様長度年まげの長でりい泉た形をか習いす全場月
°もズ〝間たいのをの三すと会のき多て中°を小とを教る国に〝
拡学今でいた絶仰全月°心員林まく熱・　と集いど育こバお名
げ習〝築とだ大せ国の　かの　しの気泉　ら団うののとズ借古
ての正い思いなつバ役　ら皆典た成に小　さに課よ実が学り屋
い理にていてるかズ員　厚様照°果あで　せ分題う施で習し工
き念求きま任ごり学会　くの先　をふの　てけでににき研て業
た・めたすを指ま習で　おご生　あれ全　い協〝創伴ま究〝高
。

平成１３年度会計報告

収入総額	６９５，０２０円	支出総額	２２５，７２６円
〈内訳〉		〈内訳〉	
繰越金	431,583	大会費	123,750
会　費	110,130	発表者研究補助費	20,000
大会参加費	132,700	通信費	46,010
寄付金	20,000	会議費	12,848
利　息	607	事務費	23,118

差引残高　４６９，２９４円

第３３回全国バズ学習研究大会での協議の様子

全国バズ学習研究会会報

15.6.15
全国バズ学習研究会 事務局
春日井市立南城中
会長 長縄秀孝

「バズ学習」ホームページ
URL:www.tcp-ip.or.jp/mrym/home.html

「バズ学習研究会」の名称変更

「全国協同学習研究会」の設立へ

三月の役員会で、会の名称変更について長時間に渡り協議を重ね「全国協同学習研究会」として新たに出発することを決めた。もちろん、「バズ学習」という学習指導理論の改称ではなく、あくまでも会の名称変更である。

本研究会は、八十年に設立され主に教育現場を会場に、毎年全国大会を開催し、昨年度までに三十四回を重ねた。実践交流を軸にして、研究者との交流で理論的な裏づけを行うというスタイルが定着してきていた。この十年近くは、最近の協同的な学習指導への関心の高まりの中で、全国大会においても バズ学習以外の様々な協同学習実践や理論の発表・紹介が積極的に行われてきていた。

しかし、「バズ学習」と銘打つことにより、広く開かれた会でありながら、どうしても限定的なイメージを拭い去ることができないという実態があった。信頼に支えられた人間関係が教育の基盤であるとするバズ学習は、様々な協同学習実践や理論との違いを強調するのでなく、共に高め合う実践づくりに本来のねらいがある。

そのような会員の認識をふまえ、より自由で多様な交流を可能にすることを目指しての名称変更である。

その他役員会で確認されたこと

○当面、バズ学習の実践者・研究者を世話役として、「協同学習研究会」を運営していくこと。※事務局としては、本年度一年かけて、新しい組織を確立したいと考えています。

第2分科会で実践報告してくださる荒木正志先生

○会則の改正
・個人会員・団体会員 ―― ▶ 個人会員のみとする

○組織強化
地区ごとに常任委員を選出し、地区での研究を推進するとともに、全国事務局とのパイプ役になっていただく。

○繰り越している会費については、「全国協同学習研究会」が引き継いでいく。

第三十四回全国バズ学習研究大会

―東京都杉並区立阿佐ヶ谷中学校にて―

平成十四年十一月一日（金）長谷川貢一阿佐ヶ谷中学校長・東京事務局のご尽力により、三十四回全国バズ学習研究大会を開催することができました。全国から百八十九名の研究・実践者が集い、活気ある協議が行われました。

大会主題「生きる力とバズ学習」のもと、午前中は学校見学、杉江先生の基調提案。午後は、四つの分科会に分かれ、八人の先生に実践報告していただきました。

〈基調提案〉杉江修治先生
バズ協同学習は、教科指導・生徒指導の方法をイメージしたものとしない方が望ましい。「教育における協同」研究と捉えるべき。そこには、教師の協同、地域と学校の協同も入る。
協同の意義は、高めあい、学び合う学習指導過程の実現にある。

第１回全国協同学習研究大会予定

１　期日　平成１６年１月末
２　会場　愛知県犬山市立楽田小学校

楽田小学校においては、少人数指導・高めあい学び合う研究・実践が力強く進められています。午後に楽田小の授業を参観させて頂いた後、協議会を予定しています。

平成１４年度会計報告

収入総額　635,144 円
〈内訳〉
繰越金　469,294 円
会　費　162,650 円
個人；2，000円×49人　5，000円×1人
団体；60，000円
雑収入　3,200 円

支出総額　309,920 円
〈内訳〉
大会補助費　200,000 円
通信費　44,010 円
会議費　25,721 円
事務費　35,189 円
慶弔費　5,000 円

差引残高　325,224 円

※「全国協同学習研究会」に引き継ぎます。

全国協同学習研究会
会員募集・会費の納入

〈会員募集〉
協同学習研究会の設立趣旨にご理解をいただき、是非会員になって頂きたいと思います。

〈会費納入〉
個人・年会費二千円
振り込み用紙を同封します
裏面の通信欄に、自宅・勤務場所の住所・電話番号をご記入ください。
八月三十日までにお願いいたします。

第１分科会の様子